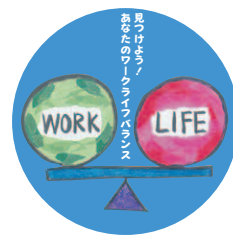


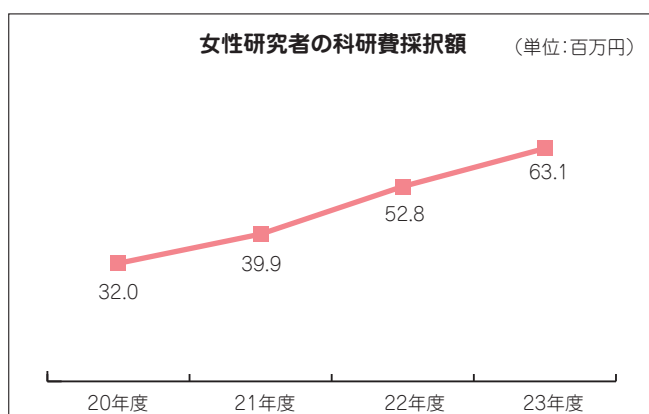
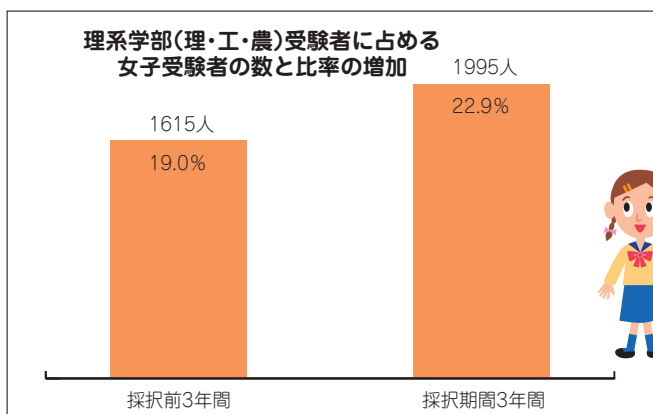
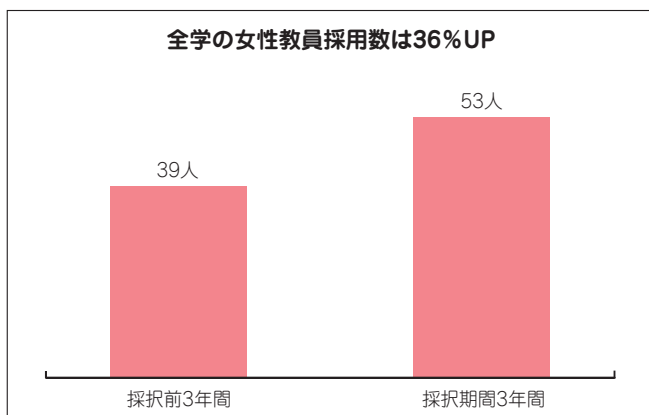
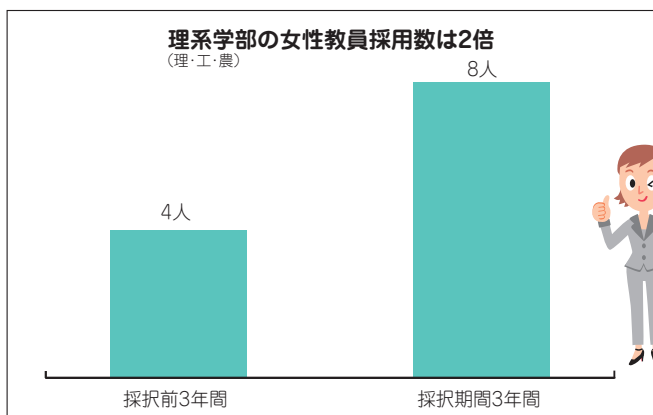
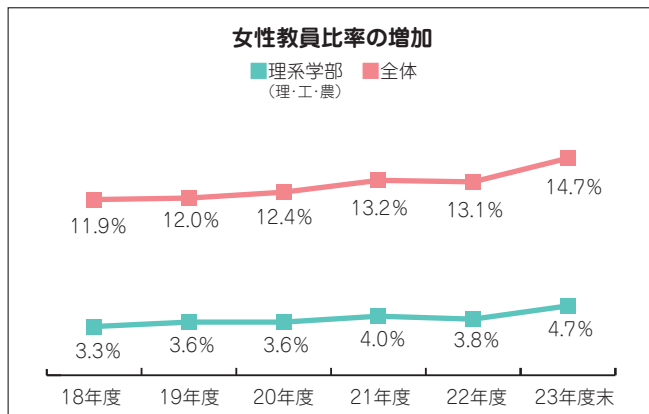
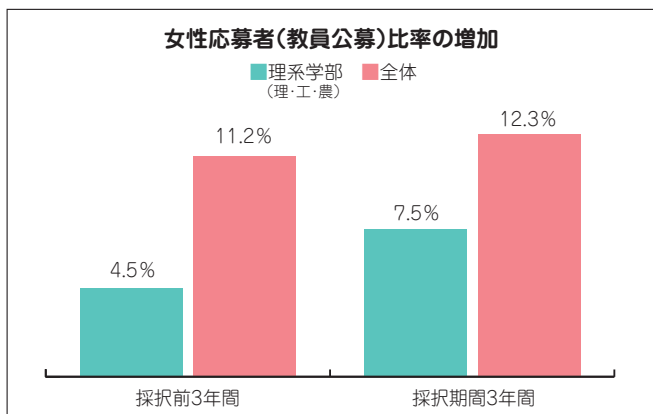
Office for Gender Equality, Yamagata University



# NEWS Letter

## 山形大学男女共同参画推進、目で見る3年間の成果 ～女性研究者研究活動支援事業前後の比較から～

平成21年度採択の文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」が、平成24年3月31日をもって終了いたしました。国の支援を受けて、この間、「山形大学男女共同参画基本計画」(10ヶ年計画)の策定、女性研究者支援に関わる5制度の新設、実施等に当たって、全部局をあげて努力してまいりました。成果を確認すると共にこの改善のペースを弛めることなく男女共同参画・女性研究者支援を継続してまいります。



# 第3回

平成24年3月5日(月)

## アドバイザーボードの結果



3人の学外有識者から3年間の取組の評価と今後のアドバイスをいただきました。

左から伊藤 真知子氏(東北公益文科大学教授)  
赤塚 孝雄氏(前山形県立産業技術短期大学校長)  
元村 有希子氏(毎日新聞科学環境部副部長)

### 評価できる点

#### 1. 全体的にみた成果

推進体制や計画が整備され、調査を行い、検証しつつ取り組んでおり成果も上がっている。

#### 2. 女性研究者のストレス減少

アンケート結果の経年変化に女性のストレス減少が現れている。女性が効果を実感できる取組だったと言える。

#### 3. きめ細かな支援

パソコンの貸出などきめ細かな支援をしている。このような取組を大切にして継続してほしい。

#### 4. ブックレット等の作成と活用

「Woman of YAMAGATA」に登場する女性たちの話はとても興味深い。広く読まれるように出版も考えてみてほしい。

### 今後期待する点

#### 1. 女性への支援の継続

研究と生活の両立は難しい。研究に没頭することが必要な時がある。没頭できる環境作りやサポート体制が必要である。

#### 2. 男性への働きかけ

毎年1名、男性の育休取得者を出すという目標は続けてほしい。男性が言い出せるよう応援していく必要がある。

#### 3. 県内連携のリーダーシップ

県内の高等教育機関の連携に取り組んでいる。男女共同参画や女性研究者支援を進めるネットワーク作りのリーダーシップを取っていただきたい。

#### 4. 政策提言や社会への発信

女性のハンディキャップのバックグラウンドにある社会を変えていくことが重要だ。取組を外に発信してほしい。



## リーフレット「男女共同参画社会ってなんだろう？」

### 人文学部男女共同参画推進委員会作成【3月発行】

人文学部では、学生・教職員向けにリーフレット「男女共同参画社会ってなんだろう？」を作成しました。「ポジティブ・アクションとは何か」、「『女性優遇』は均等法違反にならないのか」など、10の疑問に答える形で作られています。作成の中心となった阿部未央准教授(労働法)は、「男性、女性にかかわらず、暮らし方や働き方について主体的な選択ができるよう、男女共同参画社会に関する情報を提供するために作成しました」と述べています。

この中で、ワークライフバランスを妨げている要因が3点挙げられています。1. 子育て支援など社会的基盤の未整備 2. 長時間労働 3. 男性の家事・育児時間の少なさです。日本において顕著なこれらの状況を少しでも改善すべく、将来を担う学生と共に考えていきたいものです。



## ワークライフバランス実現のために

平成24年4月27日(金)開催

### 平成24年度第1回女性研究者交流会-Lunch Meeting-を開催。

今年度第1回的女性研究者交流会が事務局棟で開催されました。小白川キャンパスの教職員、保健管理センターのカウンセラーの方々の参加があり、北野室長を交えて12人が集まりました。ワークライフバランス実現のため教員・職員それぞれの立場を考慮した具体的な改善策が話し合われました。



#### ●お互いの勤務時間の違いに配慮する

多様な勤務制度・勤務時間の教職員が一緒に働いていることを理解し、相手の勤務時間終了後に仕事を頼んだり無理して応じたりせず、気持ちよく仕事ができるようにする。

#### ●応援を求める声を出す

期日が迫っていたり仕事が重なることは誰にでもある。一人で抱えずに応援を求める声を出す。また、ミーティング等を定期的にもち、各自の仕事の状況や情報の共有化を図る。

#### ●超過勤務を減らす努力をする

各自の家庭生活や趣味・教養等を身につける時間を尊重する雰囲気作りに努め、特に子育て期などの教職員に配慮する。

#### 平成24年度女性研究者交流会(ランチ・ミーティング)の開催予定

今年度も女性研究者のネットワークを広げ、情報交換ができるよう各キャンパスで開催いたします。集まりやすい時期や関心のあるテーマなどを男女共同参画推進委員の方々等と相談しながら決定いたします。男性を含めた多くの皆様のご参加をお待ちいたします。

# 平成24年度事業概要について

## 平成24年度の新体制

「山形大学男女共同参画推進に関する規程」に基づいて平成23年度末に委員会及び推進室について見直しを行いました。その結果、規程の一部を改正し(平成24年4月1日)、委員会及び推進室を継続して設置し、男女共同参画を推進していくこととなりました。

### 男女共同参画推進委員会委員の紹介

学長(委員長)	結城章夫	理 学 部	河村新蔵	農 学 部	阿部利徳
理事	北野通世		天羽優子		森 静香
理事・副学長付きスタッフ	高木直	医 学 部	小林淳子	基盤教育院	加納寛子
人文学部	立松 潔		鈴木匡子	総務部長	黒沼 毅
	赤倉 泉	工 学 部	神戸士郎	企画部長	水井義武
地域教育文化学部	伊藤清郎		八塚京子	保健管理センター所長	富樫 整
	高木直				



## 平成24年度の各種支援制度(実施中)

### 1. 学会出張時の保育支援制度(対象:子育て期の女性研究者) New

- 目的: 子育て期の女性研究者の学会出張を促すため、託児やベビーシッター経費の一部を支援する。
- 内容: 小学6年生までの子どもをもつ女性研究者(医員を含む教職員、博士後期課程大学院学生、医学専攻の博士課程大学院学生、ポストドクター)が学会に参加する際に託児やシッターを利用した場合、1人1回1万円を上限として支援する。
- 申請: 申請書と母子手帳のコピーを提出する。
- 請求: 私金立替払請求書、領収書、参加した学会の名称と日時がわかる資料のコピー、口座振替依頼書(学生のみ)を提出する。

### 2. 託児サポーター制度(対象:全教職員・学生)

- 目的: 仕事と育児の両立を可能とする職場づくりの一環として、小白川キャンパス内で一時預かりを行う。
- 内容: 研修を受けて託児サポーターの認定を受けた学生と保育士等が、満1歳から小学6年生までのお子さんを無料でお預かりする。時間は13:00～20:00の間。
- 申し込み: 予め登録し、利用の3日前(土日祝日を除く)までに予約する。



6月4日の託児風景

### 3. 研究継続支援員制度

(対象:子育て、介護等に携わっている常勤の女性研究者)

- 目的: 育児・介護等により十分な研究時間を取ることができない女性研究者の教育・研究活動を支援する。(妊娠中又は小学6年生までの子育て中の方、要介護の認定を受けている親族を介護している方を対象とする。)
- 内容: 教育・研究上の補助業務を行う支援員の雇用を支援する。
- 申請: 申請書を提出する。後期(平成24年10月～平成25年3月)は9月に募集する。支援員が学生である場合は、研究指導上関係のない学生とする。支援員として雇用する学生には指導教員の承諾書を提出させる。

### 4. メンター制度(対象:新任及び若手の女性研究者)

- 目的: 先輩研究者とのメンタリングを通じて人的ネットワークを広げ、新任者や若手研究者の能力の発揮を支援する。
- 内容: 学内メンターと支援対象者であるメンティーとが継続的にメンタリングを行う。
- 申請: 申請を受けて男女共同参画推進室が、申請者の希望する学内研究者または学内メンター登録者へ依頼し、承諾を得てメンタリングを実施する。

### 5. 巡回相談員制度(対象:全教職員・学生で希望する方)

- 目的: 仕事や学業と生活との両立に関する相談にのり、様々な支援情報を提供する。明らかになってきた課題を検討し対策を立てる。
- 内容: 仕事と生活の両立に関する状況について、個別にあるいはグループで1時間程度お話を伺う。希望者を対象とするが、新任の方と今まで一度もお話を伺っていない女性研究者の方々には、訪問の協力をお願いする。

### 6. ユビキタス・ワーキング・システム(対象:子育て、介護等に携わっている男女研究者)

- 内容: 自宅や出張先など学外からインターネットを通じて、本学ホームページの中の「学内のページ」を閲覧したり、「購入依頼・旅費請求システム」への入力ができる。

### 7. ノートパソコンの貸出(対象:子育て、介護等に携わっている女性研究者)

- 内容: 平成25年3月までの1年間、ノートパソコンの貸出を行う。現在も貸出申し込み受付中である。

## 黒谷 玲子 先生

山形大学大学院理工学研究科助教



## ◎どのような研究をされているのですか。

専門は分子生物学で、肺の発生と肺の病気を治すタンパク質の性質を研究しています。これは、アメリカ国立衛生研究所 (NIH) のがん研究センターで、肺の発生の研究を始めたことがきっかけです。それまでは、下垂体や視床下部のホルモンの研究をしていました。

今は、肺が未熟なまま生まれてきた低体重児や呼吸器の病気の人たちの治療に役立つような薬の開発に専念しています。

## ◎研究の道に進まれる時に困難はありましたか。

私が大学院進学を希望した頃は大学院の定員も少なく、その時の指導教官に「女の子が研究をしても…」と言われました。そこで、男女関係なく評価をしてくれる先生のところで大学院生として研究を続けました。

アメリカでは2回女性のボスの下で研究をしました。将来は自分のラボを持ちたいと考えていましたので、どのようにラボを運営するのも学べました。現在は、日本でもラボを持っている女性が増えてきました。

## ◎困難を克服する方法を教えてください。

「あきらめるのか」「続けるのか」を考えて選択します。ただ、好きなことを続けてきて自分の業績が評価された時はハッピーです。

## ◎お子さんを出産されて、何か変わったことはありますか。

あまりありません。特に研究に関しては。娘が丈夫に生まれてくれたからかもしれません。今年の1月15日に生まれ、現在、5ヶ月です。産休が終わりすぐ仕事に復帰しました。娘は乳児園でおもちゃに囲まれた生活をエンジョイしてくれているようです。子どもは是非ほしいと思っていましたが、若くはなかったので生まれてくるまでは不安でした。おなかの中で育つ子どもをみて、育てられるから私のところに生まれてきてくれるのだろうと考えて会う日を楽しみにしていました。

母親になって確かに子どものちょっとした熱も心配になります。小児科の先生はすごいなと思いました。言葉を話せない子どもの診断をして治療してくれるんですから。特殊な分野ですし、小児科の先生が増えるといいと思います。



研究と子育てを応援します。工学部では初の女性教員による産休取得です。理工系の女子学生のロールモデルとしても黒谷先生のご活躍が期待されます。

## Information 男女共同参画フェスタ開催中

- パネル展：「山形大学ワークライフバランス実現への取り組み」「女性と災害一支援の絆」  
会場：小白川キャンパス内インフォメーション・センター（7/3まで）
- 図書紹介：国立女性教育会館所蔵図書200冊紹介…会場：小白川図書館1階閲覧室入り口
- シネマトーク：7月12日（木）17：00～18：30  
「遊牧民の家」（山形国際ドキュメンタリー映画祭2011上映作品）  
会場：小白川図書館1階シアタールーム トーク：留学生と語る「イスラム世界の女性」

6月19日（火）～  
7月24日（火）

## Information 女性研究者のための科研費採択勉強会

## 「女性研究者のための科研費採択勉強会」

各キャンパス巡回で開催中（男性も参加歓迎）

- 日時：7月4日（小白川キャンパス）、5日（米沢キャンパス）、11日（鶴岡キャンパス）、12日（飯田キャンパス）の12：00～13：30
- 内容：科研費申請に関する情報提供と参加者同士の情報交換（昼食・飲み物持参可）
- その他：他の日時を希望の場合、相談に応じますので各部局の担当へ申し込みください。

## Information 理学部：女性研究者裾野拡大セミナー

「20年の味覚研究を通して  
見てきたもの、見えてきたもの」

- 日時：7月27日（金）16：20～18：00
- 講師：日下部裕子氏（農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所）
- 場所：理学部1号館12番教室 ●対象：学生他

## Information 農学部：女性研究者裾野拡大セミナー

「研究者になるということ！！  
～男と女で違いはあるの？～（仮）」

- 日時：7月27日（金）14：00～16：00
- 講師：鳥山和伸氏（国際農林水産業研究センター）  
佐々木華織氏（中央農業総合研究センター）
- 場所：農学部1号館2階会議室 ●対象：学生、教員、ポスドク等

## Information 男女共同参画セミナーの開催

「多様化する社会でのコンフリクト・マネジメント  
～意見や価値観の異なる人々と協働していくために～」

- 講師：中西淑美 准教授（山形大学医学部総合医学教育センター）
- 場所：事務局棟3階第1会議室（小白川キャンパス）
- 対象：学生・教職員・一般の方（約30人程度・先着順）
- 申込み：男女共同参画推進室へ

8月6日（月）  
13：30～

編集後記／3年間の採択期間が終了しました。「男女共同参画」「女性研究者支援」という言葉が定着し、各部局の推進体制も整ったことは大きな成果です。現在、女性教員比率は14.7%、今後は25%という目標をむけて、より改革を加速させていくことが課題です。（2012年7月）



## 山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 TEL 023-628-4937、4938、4939  
E-mail danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/